

## 「いのちの授業」 実施報告書



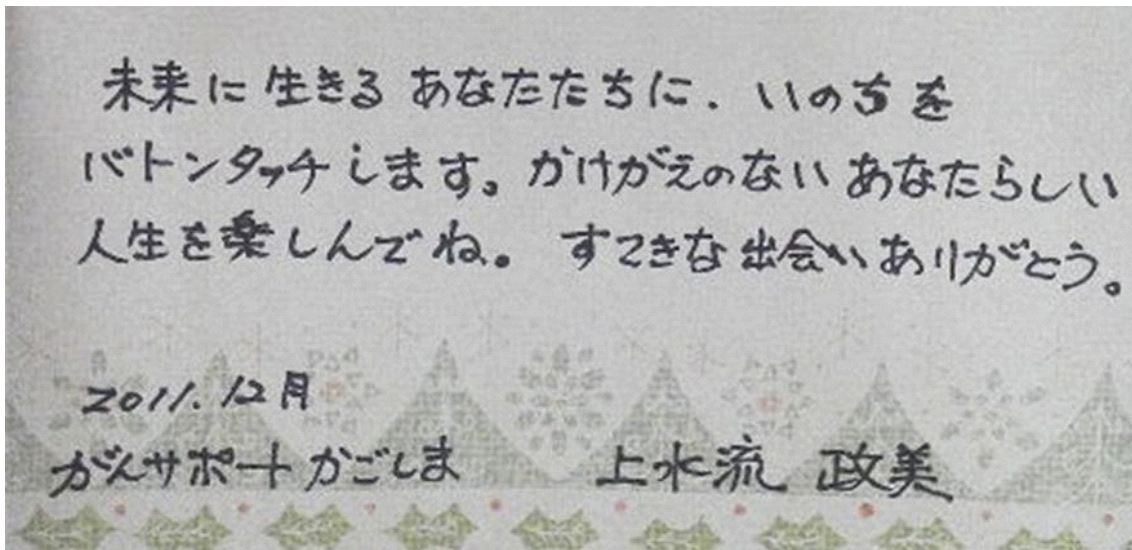
平成 26 年 3 月 28 日

NPO 法人がんサポートかごしま

## ■ 「いのちの授業」 報告書 目次

- P1 . . . . . 平成 25 年度 「いのちの授業」 実施校一覧
- P2 - P3 . . . . . 「いのちの授業」 について
- P4 - P7 . . . . . 「かみづるさんのいのちの授業」
- P8 - P16 . . . . . 学童を対象にした 「いのちの授業」 実施による意識調査
- P17 - P21 . . . . . 教諭に対するアンケート
- P22 - P24 . . . . . 添付資料・「公衆衛生」 記事

上水流さんの手書きのメッセージ



## 平成25年度「いのちの授業」実施校一覧

### 【鹿児島市】

NO	小学校名	実施日	メイン	サブ	学級数	児童数	学校住所
1	南小	10/30 (水)	三好		3	88	東郡元町13-22
2	吉野東小	11/1 (金)	三好・野田	2クラスずつ	4	133	吉野町5968-1
3	小山田小	11/5 (火)	三好	野田	2	33	小山田9398
4	皇徳寺小	11/6 (水)	石窪	三好	3	99	皇徳寺台2-50-1
5	西陵小	11/21 (木)	野田・三好	2クラス・1クラス	3	116	西陵1-11-1
6	石谷小	11/29 (金)	野田	三好	1	28	石谷町1360
7	中洲小	12/12 (木)	野田	三好	2	62	上之園町28-1
8	喜入小	1/29 (水)	三好		2	43	喜入町6993
9	瀬々串小	2/5 (水)	石窪	三好	1	22	喜入瀬々串町3103-2
10	大龍小	2/14 (金)	野田・三好	1クラスずつ	2	64	大竜町11-44
11	福平小	2/26 (水)	三好・野田・石窪	1クラスずつ	3	111	平川町819-3
12	伊敷台小	2/28 (金)	野田	三好	1クラスのみ	32	伊敷台4丁目20-1

### 【薩摩川内市】

NO	小学校名	実施日	担当		学級数	児童数	学校住所
1	隈之城小	1/31 (金)	三好・野田	2クラスずつ	4	133	薩摩川内市隈之城町1392-1

31クラス 計964名

## がん患者が学校で語る 「いのちの授業」について



特定非営利活動法人  
がんサポートかごしま

## いのちの授業で伝えたいこと

- ・ **正しいがんの知識**を伝えたい  
(最初の1本を吸わない、検診の重要性等)
- ・ がん患者への**偏見を減らしたい**
- ・ がん患者の生き方に触れ、“**いのちの大切さ**”“**周りの人への感謝**”を知ってもらいたい
- ・ **親への啓発、教師への啓発**にもつなげたい



## 授業のきっかけ

命がもったいない  
誰も教えてくれなかった



## 授業が始まるまで

2010年10月23日

○鹿児島市で「いのちの教育」を実践してきていた村末勇介先生（教諭）種村えい子先生（サバイバー）に授業を見ていただく（子どもたちも数名参加）



## 授業のきっかけ

大分県の山田泉さんの  
いのちの授業をNHKで見た



山田泉さん公式ブログより

## いのちの授業内容



2010年度～  
授業担当者

- ・ 安田千恵(大腸がん)
- ・ 三好綾(乳がん)
- ・ 石窪てるみ(乳がん)
- ・ 上水流政美(胃がん)

## がん患者のイメージ

いつも落ち込んで  
いる暗くて  
かわいそうな人



病院にいる人  
寝たきりの人  
車いすの人

正しく伝えるのは誰だろう？  
学校関係者？医療者？がん患者？行政？



たばこお酒を  
やりすぎた人  
生活習慣が  
悪かった人

顔色が悪い人  
肺が黒い人

## 2013年度の授業担当者



野田真記子  
(乳がん・子宮頸  
がん)



三好綾  
(乳がん)



石窪てるみ(乳がん)

## いのちの授業内容

### ◆授業分野

→ [保健体育] や [道徳] の授業

### ◆授業前の準備

- ・ 校長先生、担任の先生と打ち合わせ
- ・ 事前アンケート実施。
- ・ 「がんをもっと知ろう」を学校に配布し、担任から教えてもらい、質問事項をもらっておく
- ・ 子どもたちの名簿、座席表をもらっておく

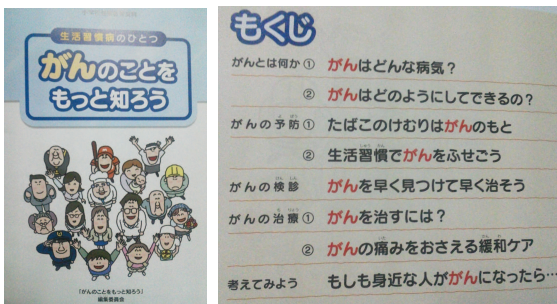
## いのちのメッセージ



がんで亡くなった上水流さんのお話「かみづるさんのいのちのじゅぎょう」を、各教室のテレビを使用し、各担当者からいのちのメッセージを伝える。



## いのちの授業内容



「がんのことをもっと知ろう」編集委員会

## いのちの授業内容

### ◆授業後

- ・ 子どもたちから感想文をもらう
- ・ 事後アンケート実施
- ・ 手書きのメッセージ配布



## 児童からの質問内容

- ・ 身近な人がガンになったとき、周りの私たちに出来ることはありますか。
- ・ がん検診ってどのくらいお金がかかるのですか。
- ・ 子どももガンになることがあるのですか。
- ・ 病気が分かってどんな気持ちになりましたか。
- ・ がんは必ず治りますか。
- ・ がんになって一番大変だったことは何ですか。
- ・ 今も気をつけていることがありますか。
- ・ タバコやお酒がなぜいけないのか知りたいです。
- ・ がんになるのに体型は関係ありますか。
- ・ 病気になってから嬉しかったことはありますか。
- ・ がんになって変わったことはありますか。
- ・ どういう治療をしたのですか。

## いのちの授業実績

- ・ 対象→小学校高学年を対象（10歳～12歳）  
合計1625名 2010年度～2013年

【鹿児島市】：西陵・伊敷台・吉野東・大龍・中洲・南・石谷・福平・皇徳寺・瀬々串・喜入小6年  
小山田小5年・6年

【薩摩川内市】：隈之城・永利小学校6年生

【鹿屋市】：寿小学校5年生／6年生

【東京都豊島区】：要小学校6年生

### ・ 授業担当者

→がん患者（治療中、無治療）5名が担当

## いのちの授業内容

### ◆授業内容（各教室単位で授業：45分）

○禁煙、がん検診の重要性などを含む

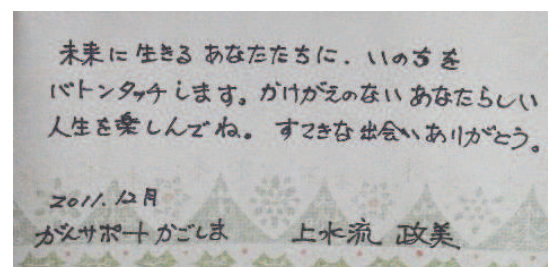
[がんの知識] について

○がんとどう向き合い生きるかという

[いのちのメッセージ]

双方向のものであり  
講演会ではない

## いのちの授業で伝えたいこと



かみづるさんの  
いのちの授業

私たちはがんになって  
「死んでしまう」と  
思いました

最後まで自分らしく  
生ききったかみづるさんから  
皆さんへのメッセージ



でも、今は  
「生きていこう」と  
思っています

かみづるさんは、  
胃がんの患者さん  
胃を全部取る手術をしました



「いのちがもったいない」

いつも、かみづるさんは  
悲しいニュースを見るたびに  
言っていました

あなたは  
「死んでしまいたい」と  
思ったことがありますか？



かみづるさんは  
最後のいのちの授業をしました



でもそれから後の誕生日は  
仲間たちが一緒に富士山に  
登ってくれたり  
お祝いをしてくれました

かみづるさんは  
子どもたちにたくさんの  
メッセージを伝えました

がんになっても  
たくさんの人に出会い、  
自然をたくさん見たいです

みなさんに今日は会えて  
本当にうれしいです  
今日はこの教室にくるまでに  
階段を上ることができるか  
とても不安でした

いつでも前向きに  
過ごそうと  
思っています

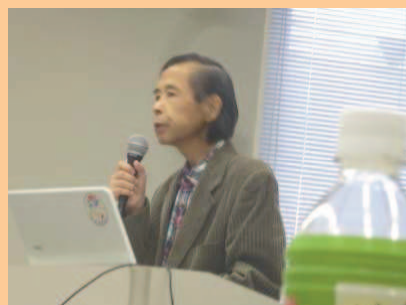
限りある命を  
自分らしく  
心おきなく生きて  
いきたいです

誕生日を病室の  
ベッドの上で迎えました  
怖くて涙が出ました  
こんな大人でも怖いんですよ



旅立つほんの少し前にも  
かみづるさんは  
彼らしく過ごしました

あなたは  
あなたのままで  
そのままでもいいよ



あなたのそばにいる人が  
あなたを支えてくれる  
だからどうか大切に

かみづるさんが  
最後のいのちの授業で  
教えてくれたことがあります



自分らしく  
生きること





ぼくはいなくなるかも  
しれないけれど  
きみたちは生きていく  
だからいつか  
こんなおじさんもいたと  
思い出してほしい



かみづるさんの  
いのちのじゅぎょうを  
おわります

さいごに

かみづるさんからの  
手書きのメッセージを  
みなさんに贈ります

未来に生きるあなたたちに、いのちを  
バトンタッチします。かけがえのないあなたらしい  
人生を楽しんでね。すきな出会いありがとう。

2011.12月  
カミサボトがごしま 上水流 政美

## 学童を対象にした「いのちの授業」実施による がんに対する意識調査

■アンケート名：

学童を対象にした「いのちの授業」実施によるがんに対する意識調査

■アンケート実施の目的：

「いのちの授業」を実施することで、対象の学童にどのような変化があるのかを調べることがを目的とした。

■アンケート実施日程：

平成 25 年 10 月～平成 26 年 2 月

■実施校：

別紙の「平成 25 年度いのちの授業実施校一覧」を参照

■実施人数：

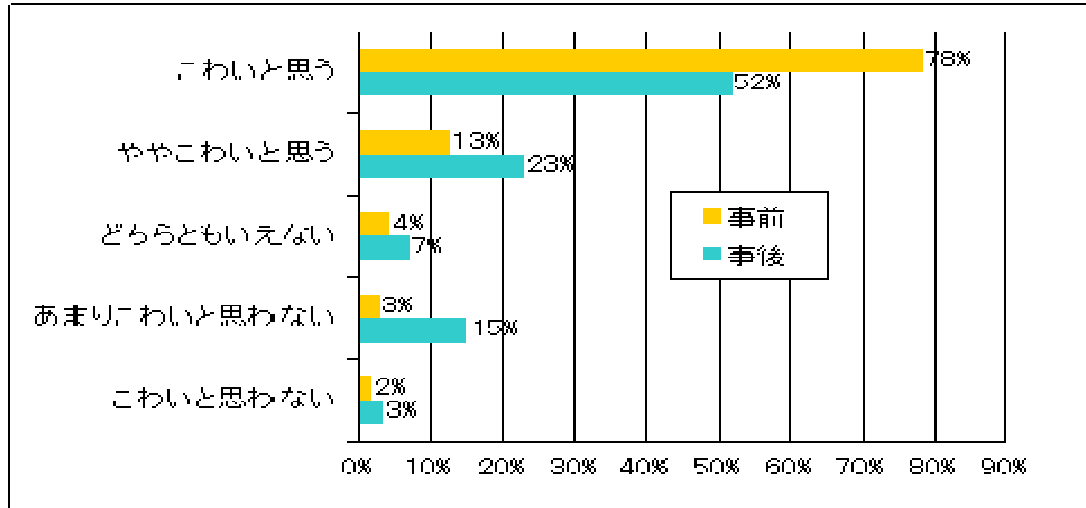
964名（対象：小学6年生 18名のみ5年生）

■実施方法：

担任教諭より教室にて無記名・記述式にて実施。事前アンケートは冊子でがんの知識を学ぶ前に実施。事後アンケートは、授業実施から1週間後に実施。

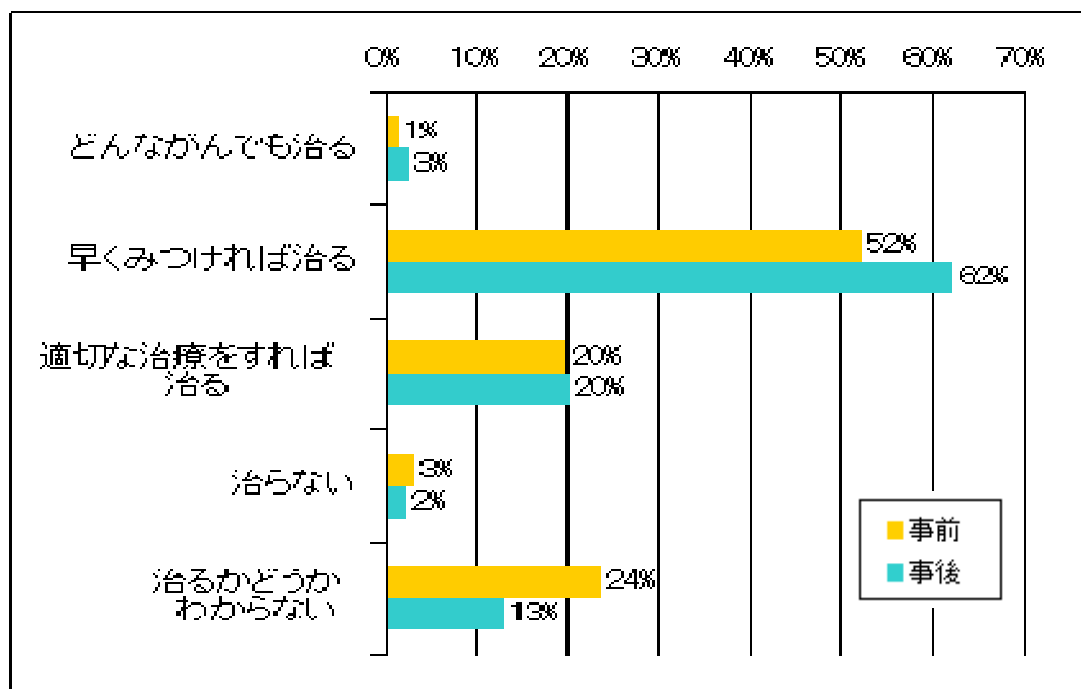
### ■あなたはがンをこわいと思いますか

授業をする前には、がんに「こわいと思う」と答えていた学童が78%いたが、授業後には52%に減った。前もってもっていた「がん＝死、治らない」というイメージが、比較的元気ながん患者の訪問により、イメージが変化したものとする。



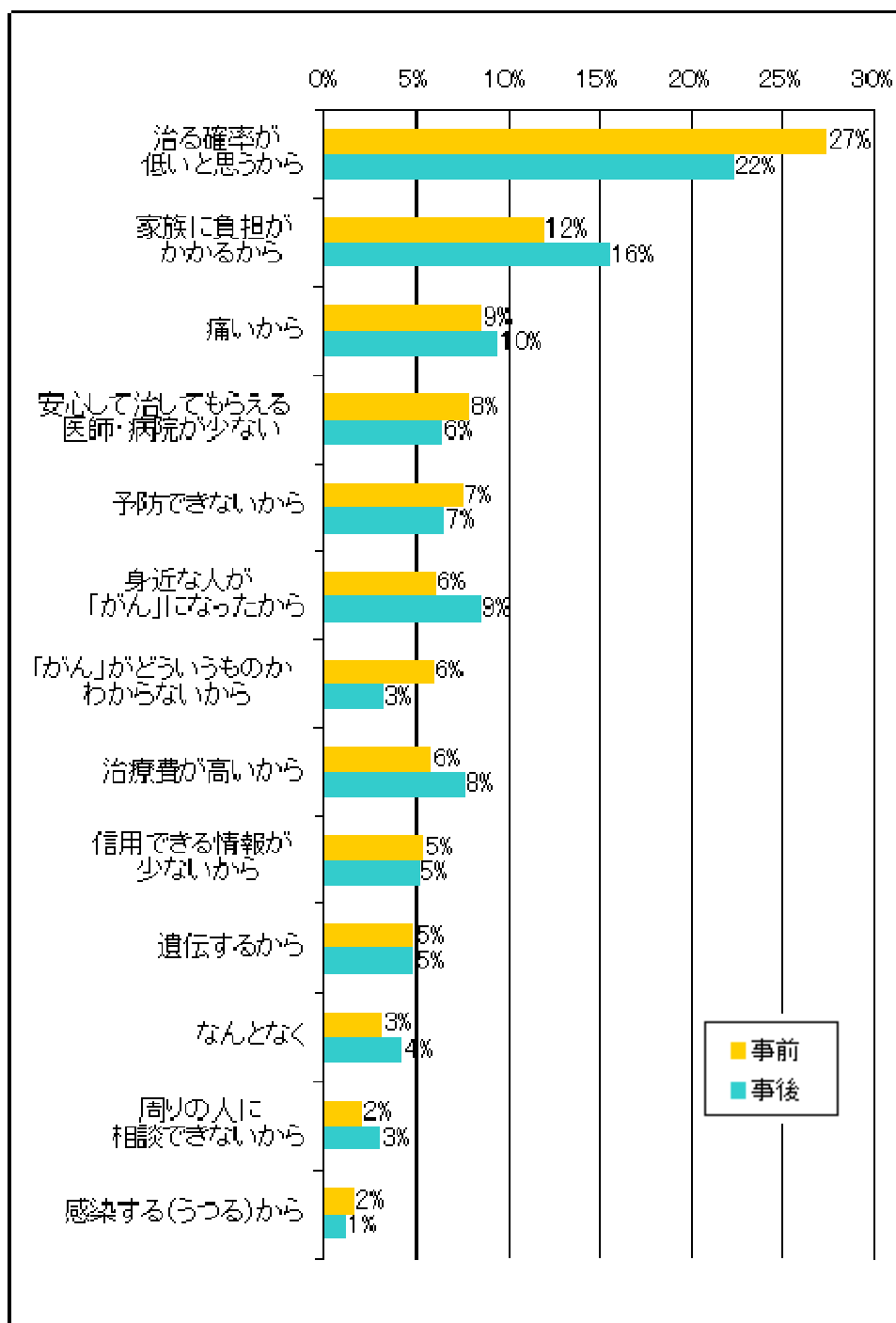
### ■がんはなおると思いますか？

授業をする前には、「早くみつければ治る」は52%であったが、授業後は62%に割合があがった。授業の中で「がん検診」について触れることが多かったこと、早期発見の体験を聞いたことも影響していると思われる。



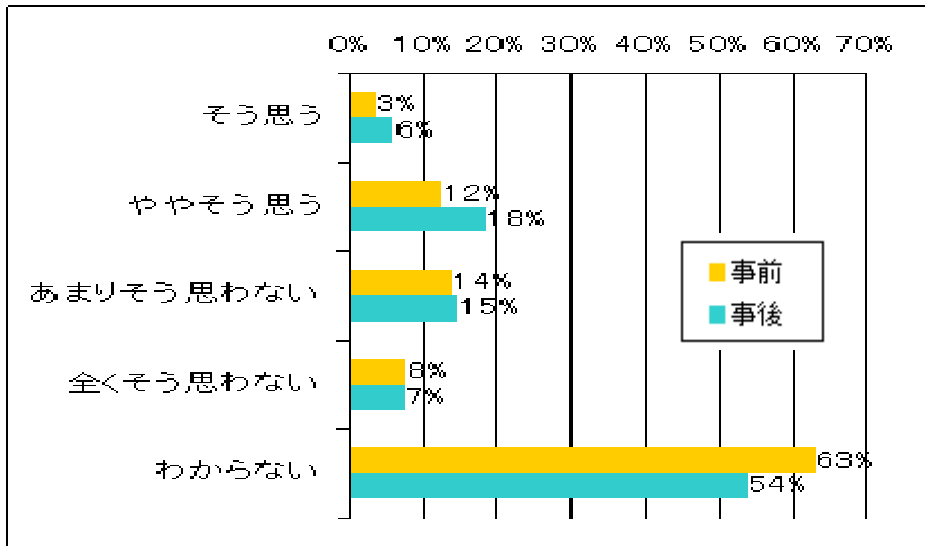
## ■がんをこわいと思ったことがある場合、なぜこわいと思うのですか？

授業をする前には「治る確率が低いと思う」という割合は27%だったが、授業後は22%と変化が見られる。前述にもあるように、がん患者が元気に暮らし働いているという話を聞いてイメージが変化したものと思われる。「家族に負担がかかる」という割合が増えているのは、メッセージとして「家族のサポートを受けて前向きになれた」という話をに入れていたからだと思われる。



### ■あなたは、将来がんにかかると思いますか？

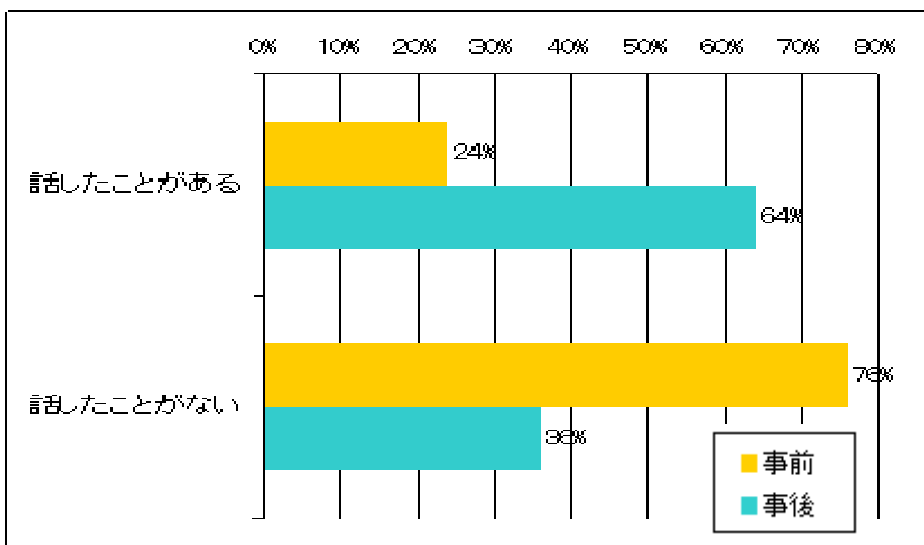
「そう思う」の割合が3%から6%にあがり、「ややそう思う」が12%から18%へと変化が見られた。少しの割合ではあるが、「がん」という病を自分のこととしても考えてくれたことが見受けられる。



### ■がんのことに、話をしたことがありますか？

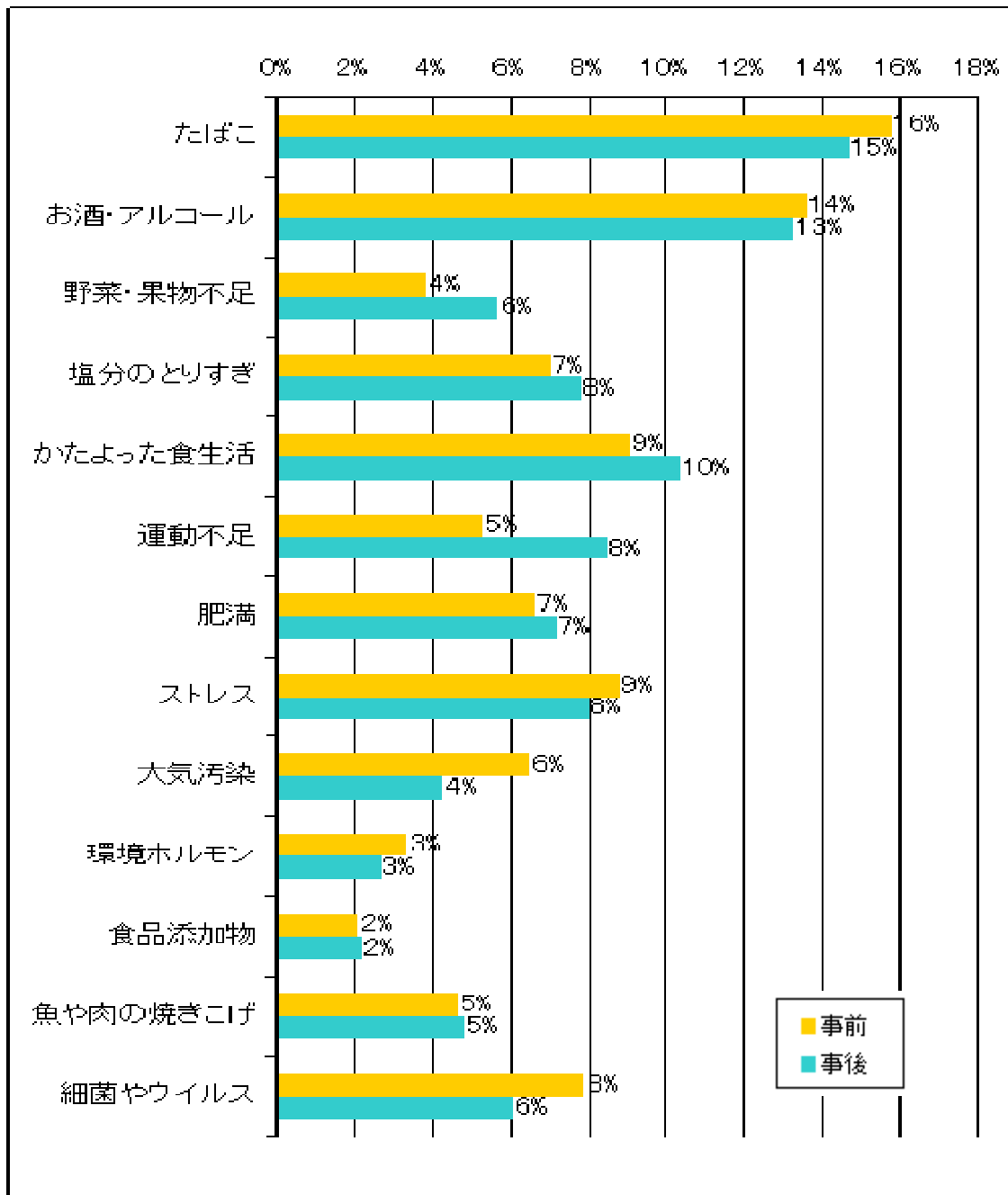
授業の前に「がんのことを話したことがある」は24%と低い割合であり、家庭であまり「がん」のことを話す機会はないことが伺える。話した内容については「身近ながんの人の話」や「テレビをみていて」という回答が多くみられた。

授業のなかで「誰かに今日の話を伝えるお願い」をしていることもあり、授業後は64%の学童が家庭で「がん」のこと、「いのち」のことについて話をしてくれている。親に「たばこを止めて」や「がん検診」を受けてという話もしており、親への啓発にもつながったとみられる。



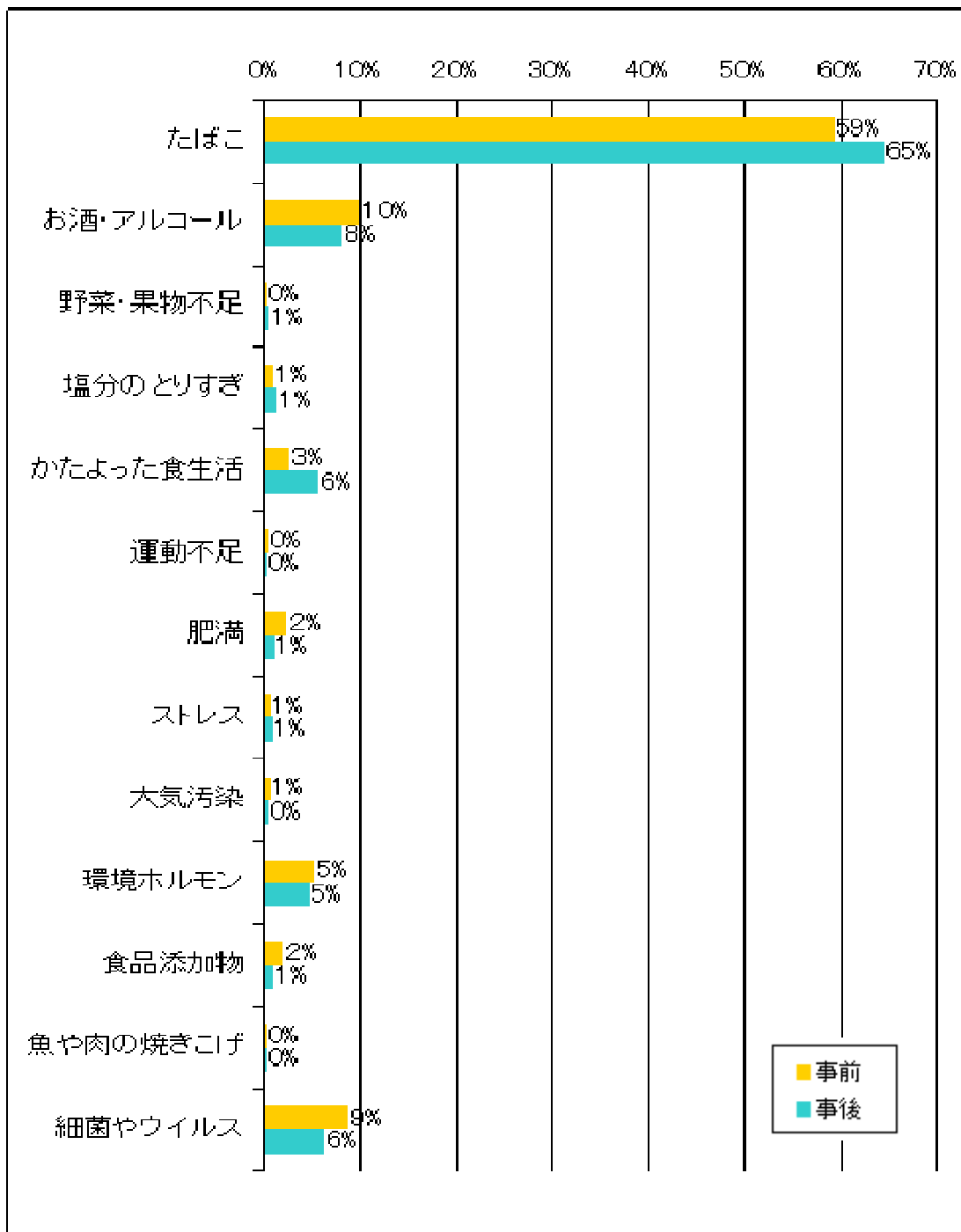
■がんの原因になると思うものをすべて選んでください(複数回答可)

授業前から「たばこ」や「お酒」「ストレス」などについてはよく理解されているが、「野菜・果物不足」などについては学んでいないようだ。こういった原因については、担任から冊子を使用し、教えてもらっているが、あまり時間を取れなかったこともあり、知識がぐんと向上したという結果にはならなかったようだ。



■その中で、がんの原因として最も影響が強いと思うものを1つ選んで選んでください

授業前から「たばこ」の害が「がん」の原因として影響が強いことは知識として持っている。授業の中で「最初の1本を吸わないで」という話もすることから、割合が59%から65%にあがる変化につながっている。



【一部抜粋】

■がんについてどのようなイメージを持っていますか。具体的に書いてください。

○事前アンケートより

治療が大変、副作用があって痛い、こわくて恐ろしい、苦しい、髪の毛がない、治る率が低い、絶対に治らない病気、悲しそう、いつか死んでしまう、遺伝で受け継がれる、命に関わる、胸のあたりが痛い、亡くなる人がほとんど、転移する、早死にしそう、がんを見つける検査も痛そう、何歳でもなる、日本人がかかりやすい、生活が不自由になる、とても疲れている、やる気がない、簡単には治らない、家族に迷惑をかける、かかりたくない、よくわからない

○事後アンケートより

治る確率もあると知りこわさが少なくなった、治る、早く見つけないと治らない、早く治療すれば治る、最初よりこわいイメージがあまりなくなった、周りの人と協力すると治る、痩せる、息がしづらい、死ぬ確率が高い、治らない人も治る人もいる、つらい治療、自覚症状がない、早く見つければ死なない、希望をもって治療をすれば治る、どんな人でもかかる可能性がある

■がん患者さんはどんな人だと思いますか？具体的に書いてください。

○事前アンケートより

・心優しい人、笑顔を絶やさない人、明るく元気にさせる人、弱音をはかない人、痛い治療を耐えている、普通の人、細い人、たばこを吸っていた人、ウイルスなどを持っていたひと、毎日がんと闘っている、毎日暗いかんじ、寝たきり、苦しそう、お年寄り、食欲がない、がんばるひと、かわいそうな人、食事もろくに出来ない、体に悪い生活をしていた、精神が強い人、ほぼ毎日病院で入院している、がんになった人の気持ちを考える人、50歳以上のひと、あきらめない人、お酒を飲んで体が弱く生活習慣がきちんとなっていない人、毎日苦しいひと、男の人が多く、死ぬのかなと怖いひと、偏った食生活をしてきたひと、煙をたくさん吸ったひと、家族に八つ当たりするひと、体全体が痛い、運動していないひと

○事後アンケートより

・つらくても前向きに頑張っている、元気な人もいる、がんになっても明るくひとりで旅行も行ける、つらいけど病院内でたくさんの人に見える、早く治療すれば治るひと、髪の毛が抜けたり体調がよくないけど、がんを治したい元気になりたいと思っている、どんなことがあっても負けずあきらめない、がんばって戦っている、どんなことでも乗り越えら



れる、前向きな人、痩せているひと、生きようという気持ちのある強いひと、普通の人、希望を持って生きている、その人の気持ちになって優しいひと、人によって太っていたり、痩せていたりする、命を大切にしようとしている人、強いひと、かわいそう、がんになっても生きる希望をもっている、みんなと同じ人間、髪の毛が抜けたひと、かわいそうだけど元気になったひと

## ■家族で「がん」についてどんな話をしたことがありますか？

### ○事前アンケート

- ・家族ががんで亡くなる前、絶対治るという話をしていました
- ・祖父ががんになって今辛い時期だと思うという話
- ・ひいおじいちゃんががんで亡くなったので、ひいおばあちゃんには長生きしてもらいたい。がんになった人は生きてくてもいきられない人がいるから、命を大切にしないではいけない
- ・がんの患者さんのことを髪の毛が抜けたりしても笑ったりしてはいけない
- ・「2人に1人はなる」ということを話した
- ・たばこは美味しくないし体に悪いし、がんになりやすいと話した
- ・お父さんががんで亡くなっていて、そのことをお母さんと話したことがあります
- ・がんはかぜみたいにうつるのか、がんになったら死んでしまうのか
- ・がんは誰でもなるのか、なったら死ぬのか
- ・祖父ががんになった話
- ・野菜をちゃんと食べなきゃいけない理由

### ○事後アンケート

- ・おじいちゃん、おばあちゃんはがんで亡くなったけど治るひともいるんだね。そんなに怖い病気じゃないんだね。
- ・がん患者さんもがんばってるから、元気にがんばろう
- ・がんはそこまで怖い病気じゃなかったこと
- ・「命の大切さ」「がんのお話」について
- ・かみづるさんから「命のバトン」をもらったこと
- ・がん患者で亡くなった方の分まで一生懸命生きるということ
- ・自分のいのちも、人のいのちも大事にしないでいけない
- ・がん検診に家族は行っているのか
- ・がんにならないように予防していこうということ
- ・いのちの授業で学んだことを話した
- ・がん検診をしっかり受けてね、と親に伝えた

## ■感想文抜粋

### 【がんのこと】

- ・治療法やがんはどうやったらなるのかなどと教えてもらい、これから気をつけようと思った。肥満の人や痩せているひとなりがりやすいと思ったけど、話を聞いてどんな体型でも、たばこを吸ったりお酒をのみすぎたりするとがんになるのかもと思った
- ・がんに対しては怖いイメージや辛いイメージがありましたが、話のおかげで患者さんにも結構元気な人が多いとか、手術や治療が成功すれば元気になると教えてくれたので、今までのイメージが変わりました。
- ・テレビのドラマなどでがんになったら、髪が抜けたり、食べ物を吐いたり、きついイメージがあり、死に至る可能性もあるという怖いイメージがありましたが、変わりました。
- ・がんは早期発見・早期治療をすれば治る病気であると知りました。またがん患者さんへの偏見もなくなりました。
- ・大人になったら、がんの検査に積極的に行こうとおもった。

### 【いのちのこと】

- ・ぼくは死んでしまいたいなんて考えたことはないけれど、将来そんな考えをもつかもしれないけど、ぼくはそんなときに今日の授業を思い出して自殺だけはしないようにしたいです。
- ・三好さんが「死にたい」と思ったことがありますかと聞いたとき、ドキッとしました。わたしは手を挙げなかったけど思ったことは何回もあります。わたしは、他の人にとって必要なかと思ったこともあります。でも三好さんの話を聞いて、かみづるさんのバトンタッチを受け取って生きていきたいと思います。
- ・私は何度かこの世から消え去りたい、私なんかいなくてもなにも変わることはないなどと思ったことがあります。でもかみづるさんのメッセージを見て、休み時間涙が止まりませんでした。
- ・「死にたい」と思っても「死なないで」と思っている人がいるから、「死にたい」という気持ちを「生きたい」という気持ちに変えられることが分かりました。
- ・私が「死にたい」と思うときや「つらい」と思うときは、三好さんやのださん、かみづるさんの言葉を思い出して一生懸命生きていきたいです。
- ・この世は生きていくことか、死んでいくか、この二択を自分で選択できない人もいるんだなと思いました。
- ・がんの患者さんでも自分たちと同じ生活ができることが嬉しいと思いました。
- ・私はつらくて死にたいと思ったことがあったけど、かみづるさんの「自分らしく生きてください」というメッセージを聞き、自分から命を投げ捨ててはいけない、私もかみづるさんのように自分らしく生きろうと思いました。
- ・コンプレックスに落ち込んでばかりいた私には、三好さんの「あなたはあなたでいい」という言葉に救われた気持ちになり、とても心強かったです。

## いのちの授業についてのアンケート

以下、アンケートにご協力をよろしくお願い致します。

【                   】 小学校 担任クラス【                   組】 氏名【                   】

Q1、事前の準備（アンケート実施等）は

【 大変だった    やや大変だった    あまり大変ではなかった    大変ではなかった    】

Q2、「がんをもっと知ろう」冊子を担任の先生から教えることができた時間

【 全くとれなかった            0分～30分            30分～60分            60分以上    】

Q3、「がんをもっと知ろう」冊子を教えるにあたって使用した時間帯

【 授業中に教えた    宿題にした    教えられなかった    その他：                       】

Q4、「がんをもっと知ろう」冊子を教える際に難しかったことがあればお書きください。

Q5、「がんをもっと知ろう」冊子の別冊指導本について、気付かれたことがあればお書きください。

Q6、がんについての教育を、今回のようにがん患者が教えることについて

【 大変よいと思う    ややそう思う    あまりそう思わない    思わない    】

理由：

Q7、「いのちの授業」を通して、子どもたちにとって良かったと思う点をお選びください。  
(複数回答可)

- ( ) がんの知識について学ぶことができた
- ( ) がん患者さんの気持ちを知ることができた
- ( ) いのちの大切さについて学ぶことができた
- ( ) 周囲のひとや家族への感謝の気持ちについて学ぶことができた
- ( ) 友人などへの言葉かけなどについて学ぶことができた
- ( ) その他：( )

Q8、子どもたちの反応は

【 大変よかった ややよかった あまりよくなかった よくなかった 】

Q9、来年度や異動先の学校における「いのちの授業」の実施について

【 実施してもらいたい 実施しなくてもよい 】

Q10、ご異動の場合、構わなければ異動先の小学校名をお教えてください

【                      】小学校

Q11、何かアドバイスやご意見があればぜひお願い致します。

今回は事前準備から、事後の感想文まで大変お世話になりました。  
ありがとうございました

アンケート回答〆切：平成 26 年 3 月 31 日

**FAX 番号：099-833-3143**

#### Q1、事前の準備(アンケート実施等)は

項目名	数	割合
大変だった	0	0%
やや大変だった	2	14%
あまり大変ではなかった	7	50%
大変ではなかった	5	36%
合計	14	100%

#### Q2、「がんをもっと知ろう」冊子を担任の先生から教えることができた時間

項目名	数	割合
全くとれなかった	0	0%
0分～30分	4	29%
30分～60分	8	57%
60分以上	2	14%
合計	14	100%

#### Q3、「がんをもっと知ろう」冊子を教えるにあたって使用した時間帯

項目名	数	割合
授業中に教えた	14	100%
宿題にした	0	0%
教えられなかった	0	0%
その他	0	0%
合計	14	100%

#### Q4、「がんをもっと知ろう」冊子を教える際に難しかったことがあればお書きください。

- ・子どもたちに分かりやすい内容だったと思う。
- ・わかりやすかったです。
- ・コピーするにはページ数が多いと感じた。
- ・コピーすることがページ数の関係が難しく、ページをテレビに映しながら指導となった。
- ・児童にとっても、分かりやすい内容で良かったです。
- ・限られた授業時数の中で、教えるための時間確保が難しかった。
- ・DVD や掲示資料があると助かります。

Q5、「がんをもっと知ろう」冊子の別冊指導本について、気付かれたことがあればお書きください。

- ・教育課程に組み込まれていたら、もっと時間がとれると思った。
- ・よく書かれています。
- ・詳しく書かれていました。

Q6、がんについての教育を、今回のようにがん患者が教えることについて

項目名	数	割合
大変よいと思う	13	93%
ややそう思う	1	7%
あまりそう思わない	0	0%
思わない	0	0%
合計	14	100%

**【理由】**

- ・子どもたちにとっても伝わりやすい。子どもたちが実際お会いできて、理解しやすかったから。
- ・真剣さが伝わってくるから。
- ・現実的で、自分のこととして捉えられる。
- ・実体験された方の話は、子どもたちにとっても聞き方が違う。
- ・体験に基づいて話をさせていただくことで、子どもたちの真剣さが違うと感じた。
- ・直接、患者の方からのお話を聞くことで、子どもたちのがんに対する偏見や「死」への捉え方など、大きく変わりました。ぜひ引き続き実施をお願いします。
- ・第三者が伝えるよりも、子どもたちへの伝わり方が違う。
- ・実際の体験された方の話は、とても優しく細やかで深い説得力があると思います。
- ・子どもたちは実際のことや、その方の話をしっかりと聞くので。
- ・言葉に重みがあって心に届くから。
- ・がんを通して、命の大切さを伝えることができるのではないのでしょうか。人の気持ちに触れることもできそうです。
- ・生の声を聞けるということは、子どもたちにとって、とてもよい経験になると思います。生きるということについて、じっくり考えることができました。

**Q7、「いのちの授業」を通して、子どもたちにとって良かったと思う点をお選びください**

項目名	数	割合
がんの知識について学ぶことができた	12	22%
がん患者さんの気持ちを知ることができた	12	22%
いのちの大切さについて学ぶことができた	14	25%
周囲のひとや家族への感謝の気持ちについて学ぶことができた	9	16%
友人などへの言葉かけなどについて学ぶことができた	8	15%
合計	55	100%

**Q8、子どもたちの反応は**

項目名	数	割合
大変よかった	14	100%
ややよかった	0	0%
あまりよくなかった	0	0%
よくなかった	0	0%
合計	14	100%

**Q9、来年度や異動先の学校における「いのちの授業」の実施について**

項目名	数	割合
実施してもらいたい	14	100%
実施しなくてもよい	0	0%
合計	14	100%

**Q10、今後のアドバイスについて**

- ・今後も続けてほしいです。
- ・今回の授業で「生命のリレー」という言葉の深さ、重みが理解でき、私自身も改めて考えさせられました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。ぜひこれからも多くの子どもたちにお話をしてください。よろしくお願ひ致します。
- ・事前、事後の準備までいただきありがとうございました。冊子は、保健の授業等でも利用することができると思います。
- ・そのままで十分です。一人ひとりへの手紙も喜んでいましたし、改めてあの日のことを思い出したようです。卒業前に本当によい時間をいただき、ありがとうございました。

# ほら、あなたのまちでも… そこに「がん予防」が…

連載

エビデンスの最前線&ナラティブな実践事例

【第6回】

## 小学校で患者たちが語る 「いのちの授業」

—子どもたちにとっても他人事ではない「がん」を知る

特定非営利活動法人がんサポートかごしま理事長 三好 綾

私自身が乳がん罹患したのは今から九年前。突然の告知。しかし、まったくもってがんに関する知識はありませんでした。襲ってくる漠然とした恐怖感。先が見えないことがこんなにも苦しいのかと痛感しました。そもそも振り返れば、誰もがんの知識を教えてはくれませんでした。祖父が二人ともがんで亡くなっていますが、親戚一同、誰もその経過や最期を話してくれませんでしたし、子どもの頃に「がん」や「死」を学ぶ機会もありませんでした。そして、知識も受容の準備もないまま、突然のがん告知。だから、おびえたのです。そのような経験もあって取り組んだ「いのちの授業」。ここでは、そのきっかけや実施してみた子どもたちの反応、がんについての知識を学校教育のなかで早期に提供する必要性等について述べたいと思います。

いう気持ちより一層強くさせた  
のでした。

◆患者の心からのメッセージ

「特定非営利活動法人がんサポートかごしま」が開催している、がん患者や家族、遺族が集まる「がん患者サロン」で交わされる会話は、「いのち」に関わる強いメッセージで溢れています。

「最近、子どもに関わる悲しい事件が多過ぎる。いじめられて自殺したり、親が虐待して子どもを殺してしまったり…。命がもつたいない。未来ある子どもたちには、がんで亡くなっていく仲間たちの分まで生きてもらいたい…」。

がん患者をはじめみんなが、この気持ちを誰かに伝えたいと思っています。

子どもたちの素朴な質問に  
生の声で答える患者たち

そして、「NPO法人がんサポートかごしま」のメンバーであるがん患者四人が立ち上がりました(写真1)。「いのちの授業」プロジェクトです(表参照)。

鹿児島県教育委員会と各市教育局の協力を得て、小学校を選



(写真1)「いのちの授業」を担当するNPO法人がんサポートかごしまのメンバーであるがん患者4人

抜していただき、二〇一〇年十一月から十二月にかけて、四つの小学校の約五〇〇人近くの小学五年生と六年生に授業を行うことになりました。講演会方式ではなく、教室単位にこだわりました。その理由は、一人一人の子どもたちの目を見つめながら話をしたかったからです。

教室で準備をしていると、子どもたちが寄ってきます。「ねえ、がん患者さんって担架に乗ってここに来るの?」。がん患者である私は、「私はがん患者でね、私がお話するんだよ」と答えると、「ええっ! うそ!」と驚きの声が上がります。小学生にとってのがん患者のイメージは、「寝たきり」「瘦せている」「いつも点滴をぶらさげている」。だから、私たちが

いのちの授業を  
実施することになったわけ

◆乳がん体験

今思うのは、もっと前からがんの知識を持っていれば、恐怖と闘わずに済んだのではないかと、思うことです。恐怖心をゼロにするのはむずかしくとも、心の整理をつけるための時間は短くて済んだ

かもしません。もっと早くにがんを学んでおきたかった、という後悔の念が、私の背中を押しました。

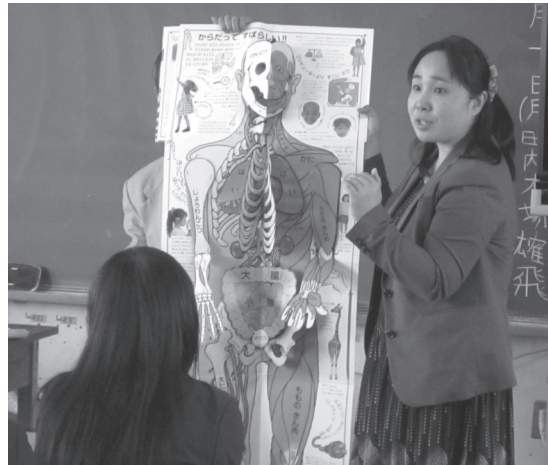
また、患者会に携わり、「生きること」「死ぬこと」に向き合う日々を送ることになったことに加え、私自身以前、教育に携わっていた経験があったことも、がんの知識、そして「生きること」「死ぬこと」を教育の現場で伝えたいと



表 「いのちの授業」の概要

<p>■ 事前準備</p> <p>①授業までに、学校の担任から『がんのことをもっと知ろう』冊子について学ぶ時間を取ってもらう。</p> <p>②担任が「がん患者さんに聞きたいこと」という質問を回収し、授業担当者に提出</p>	<p>■ 授業当日（45分授業）</p> <p>①担任から担当者を紹介してもらう</p> <p>②前半は「がんの知識」について質問に答える</p> <p>③後半は「いのちのメッセージ」を中心に伝える</p> <p>■ 後日</p> <p>①授業を受けた生徒全員が感想文を提出</p> <p>②冊子「いのちのじゅぎょう」を制作</p>
--	--

(写真3) 小学校健康教育資料「がんのことをもっと知ろう」



(写真2) 小学校で行った「いのちの授業」の様子

患者が自分で車を運転して学校にやってきて、立って話をするだけで驚きの対象となるのです。もちろん、病状次第でそのような状態になる患者さんもいると伝えただけで、私たちががん患者の多くは、みんなと同じように美味しいご飯を

食べて、普段通りの生活を送っているということを伝えます。

いのちの授業(写真2)の前までは、前もって書いてもらった「がん患者さんに聞いてみたいこと」という質問に答えます。「がんは痛いですか?」「子どももがんになりますか?」「がんは治りますか?」などの質問のうち、がんに関する知識等については、国立がん研究センター片野田耕太氏が研究分担者となっている厚生労働省がん研究助成金「教育機関および家庭におけるがんの知識の普及に関する研究」班が制作した冊子「がんのことをもっと知ろう」(写真3)を用いて説明しました。

授業を通じ、小学校高学年になる子どもたちがいかに「がん」を学んでいないかを実感しました。

**キャンサーズ・ギフト  
ありがとうと思える気持ち**

私たちは授業で、「死んでしまいたいと思ったことがある人はいませんか?」と問いかけます。とても際どい質問なのでしょう。子どもたちはこの質問を聞いたとき、ぎょっとした表情をします。そわそわしたり、目を合わせないよう

に下を向いたり、逆にニヤニヤしたりと、いろいろな反応があります。キラキラとした瞳の奥に、たくさんの悩みを抱えながら過ごしている子どもたちもいるのだ、と感じました。

授業ではまた、がんと宣告されたときの驚き、悲しみ、不安、抗がん剤治療で髪の毛がなくなったことなどについても、包み隠さず話します。そんなときに支えてくれた家族や友だちや仲間への感謝の気持ち、そして亡くなっていった仲間の話もします。最期まで「生きたい」と願い、家族のことを案じながら、亡くなっていったがん患者の話を含み隠さず話し、人は一人では生きられないことや、君たちの隣にいる人が君を助けてくれるかもしれないというメッセージを心を込めて伝えます。

「キャンサーズ・ギフト」の話もします。がんになってから貰えたプレゼントの話です。子どもたちは、がんになって良いことがあるなんて思いもしなかったでしょう。でも、がんになったからこそ「ありがたい」と思えることがたくさんあるのだと話します。「ご飯を食べられるって幸せなことだ

よ」「あなたの隣にいますお友だちとの出会いもありがたいこと」おうちの人がお世話を焼いてくれることだって幸せなこと。感謝しなきゃ」。

さつきまで茶化していた子どもたちが真剣なまなざしで聞いてくれることが私たちにとっての幸せでもあります。

**いのちの授業を  
通して思うこと**

◆知識を得るのは早いほうが良い子どもたちのなかには家族が闘病中という子もいました。しかしその子は、本当のことを知らされておらず、子どもというだけで氣遣われているということに気づいていました。

私たちを質問攻めにしたある子は、お母さんが抗がん剤治療中でした。兄が小児がんだという子どももいました。みんな子どもたちなりに家族をどう支えたら良いのか、と苦悩していたのです。

これから、がん患者は増加していきます。それだけ、がん患者の子どもも増えていくわけです。小学生の頃からがんの知識について教育しておくことが必要な時代に

「いのちの授業」を受けた子どもたちの感想文

■ わたしは命のじゅぎょうで、がんとはこわいものと思っていたけれど、「がんと戦うことは大切だ!」と思いました。わたしはがんになっても、こわがらずに治りようをしたいと思います。

■ ぼくはあのとときの授業で、本当の命の大切さを知ることができました。ぼくの兄はダウンしょうという障害をもっているけど、元気です。生きているだけでもすごいことだな、とぼくは思いました。

■ がんになってしまったら「人生が終わる…」というイメージなんですけど、もしわたしががんになってしまったとしても、生きることをあきらめず、がんから目をそらさず、最後の時間(とき)まで生きようと思います。

■ 命を大切にすることや死ぬまぎわに思う気持ちなど、三好さんの一言一言が勉強になりました。私の祖父も4月に心臓病で亡くなりましたが、最期のことばが「ありがとう」でした。なので、祖父も三好さんの友だちが思っていたことと同じように考えていたのかなと感じました。

■ 命がとっても大事なんだなと思いました。わたしはときどき死にたいなと思うけど、応えんしている人たちもいるので、やっぱりやめとこうと思います。じいちゃんが亡くなっているの、そのぶんわたしが一生けん命生きたいと思います。

■ 私は、がんの患者さんに初めて会いました。すごくつらそうにしているというイメージがあったので、三好さんが乳がんの患者さんだなんて、想像もつきませんでした。私は前の学校で何回かいじめに合って、「自殺」をしようとしていたことがあって、三好さんの話を聞いて、私はなんてばかなことをしようとしていたんだろう、と反省しました。これからは、一生考えることはないと思います。

◆ 子どもたちは最強の啓発サポーター!  
大人だろうと子どもだろうと体

子どもたちからもらった「いのちの授業」の感想文の数々



なっているのではないかと、と強く感じます。

験者の生の声が一番心に響くもの。たばこは身体に悪いと私たち患者が話すことがどれだけの説得力を持つか、考えてみてください。同じように、がん検診をきちんと受診しておけば、がんが見つかったりも治る可能性がぐっと上がることを当事者が伝えれば、子どもたちは覚えていくでしょう。実際、いのちの授業後の感想には、「家に帰ってから家族にがん検診を受けるように伝えました」「たばこを止めるように言いました」というものが数多くあります。行政や専門家、あるいは妻に言われてもたばこを止めないお父さんであっても、可愛い娘に言われたら、「参ったな。止めようかな」という気持ちになるようです。これからの時代のがん検診・がん予防啓発サポーターには、子どもたちが最も適任なのかもしれません。

◆ がんも「個性」

子どもたちは今、さまざまなコンプレックスと闘って過ごしていると感じました。そして、人と違うことを「恥ずかしい」と思う子どもの多さに驚きました。持って

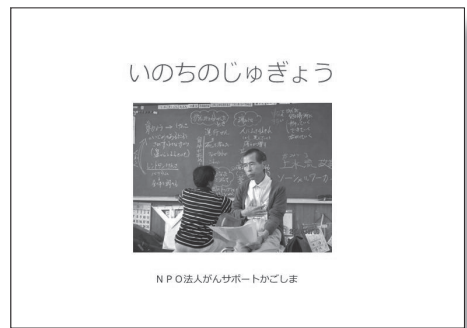
生まれたものを受け入れること、そして大きくなってから環境が変わり受け入れなくてはならないこと……子どもたちには今後もたくさんさんの受容すべきことが待ち構えているだろう。でもそんなときに、私たちががん患者ががんという病気を「個性」の一つとして受け入れ、生きていたことを思い出して、強く生きてほしいと思うのです。

◆ 生き、そして死ぬことを知る

がんになっても前を向いて闘い、そして死にゆくことを受け入れ、最後まで「生き切る」ことの大切さ。子どもたちは、がん患者さんからのたくさんさんのメッセージを心に留めてくれたと信じています。今は元気な子どもたちもいつか、がん罹患者の場合があるでしょう。そのときに少しでも動揺がないように、授業で学んだ知識や私たちのメッセージを思い出してくれることを願っています。

学校教育でしっかりと学べる環境づくりを!

子どもたちに「がん」のことを知ってもらい、「今を生きていることの大切さ」を知ってほしい――。



(写真4) 活動をまとめた冊子「いのちのじゅぎょう」

そんな願いを受けて、鹿児島県ではがん患者による「いのちの授業」を引き続き行っています。また、「いのちのじゅぎょう」という私たちの活動記録でもある冊子(写真4)も完成したので、小学校への配布を予定しています。いまや国民病となっている「がん」。子どもたちにとっても、もはや他人事ではないような状況であるわけですから、小さい頃から学校教育のなかで、もっと学べる時間を増やすべきです。がん検診の受診率が伸び悩んでいる状況も考え合わせると、大人になってからの啓発ではなく、小さい頃から検診の重要性などを訴えていくことも必要ではないかと強く感じます。